

皮膚科学

1 構成員

	平成22年3月31日現在	
教授	1人	
准教授	1人	
講師（うち病院籍）	1人	（ 1人）
助教（うち病院籍）	4人	（ 2人）
助手（うち病院籍）	0人	（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人	
医員	5人	
研修医	0人	
特任研究員	0人	
大学院学生（うち他講座から）	0人	（ 0人）
研究生	0人	
外国人客員研究員	0人	
技術職員（教務職員を含む）	1人	
その他（技術補佐員等）	1人	
合 計	14人	

2 教員の異動状況

- 瀧川 雅浩（教授）（H2. 10. 16～H22. 3. 31辞職）
 橋爪 秀夫（准教授）（H19. 4. 1～現職）
 伊藤 泰介（講師）（H19. 4. 1～現職）
 瀬尾 尚宏（助教）（H19. 4. 1～現職）
 川村 哲也（助教）（H20. 1. 1～H22. 3. 31辞職）
 藤山 俊晴（助教）（H21. 3. 1～現職）
 鬼頭由紀子（助教）（H21. 9. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編	（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	18.65	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	12編	（ 11編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	6編	（ 5編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	1編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	1.97

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hashizume H., Aoshima M., Ito T., Seo N., Takigawa M., Yagi H.: Emergence of circulating monomyeloid precursors predicts reactivation of human herpesvirus-6 in drug-induced hypersensitivity syndrome. Br. J. Dermatol. 161; 486-488, 2009.
2. Ito T., Fukamizu H., Ito N., Seo N., Yagi H., Takigawa M., Hashizume H.: Roxithromycin antagonizes catagen induction in murine and human hair follicles: implication of topical roxithromycin as hair restoration reagent. Arch. Dermatol. Res. 301; 347-355, 2009.
3. Ito T., Aoshima M., Ito N., Uchiyama I., Sakamoto K., Kawamura T., Yagi H., Hashizume H., Takigawa M.: Combination therapy with oral PUVA and corticosteroid for recalcitrant alopecia areata. Arch. Dermatol. Res. 301; 373-380, 2009.
4. Ito T., Ito N., Hashizume H., Takigawa M. Roxithromycin inhibits chemokine-induced chemotaxis of Th1 and Th2 cells but regulatory T cells. J Dermatol Sci 54: 185-191 2009
5. Ito N., Sugawara K., Bodo E., Takigawa M., Van Beek N., Ito T. Paus R.: Corticotropin-releasing hormone stimulates the in situ generation of mast cells from precursors in the human hair follicle mesenchyme. J. Invest. Dermatol., 130; 995-1004, 2010.

インパクトファクターの小計 [16.307]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suda T., Kaida Y., Nakamura Y., Enomoto N., Fujisawa T., Imokawa S., Hashizume H., Naito T., Hashimoto D., Takehara Y., Inui N., Nakamura H., Colby TV., Chida K.: Acute exacerbation of interstitial pneumonia associated with collagen vascular diseases. Respir. Med. 103; 846-853, 2009.

インパクトファクターの小計 [2.338]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 佐藤 朗, 川村哲也, 堀部尚弘, 伊藤泰介, 八木宏明, 橋爪秀夫, 瀧川雅浩: アトピー性皮膚炎に及ぼす内服アスタキサンチンの効果. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌3(5); 429-438, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 橋爪秀夫: 腫瘍ペプチドを用いた経皮免疫療法. Skin Cancer 24(2); 164-173, 2009.
2. 橋爪秀夫: 紫外線と皮膚. 日皮会誌119(13); 2906-2912, 2009.

3. 橋爪秀夫：薬剤アレルギーの診断と治療の進歩 重症薬疹の治療.臨床免疫・アレルギー科53 (3); 292-300, 2010.
4. 伊藤泰介：「脱毛症up-to-date病態に基づく男性型脱毛症（AGA）の治療」. 岐阜県医師会内科会だより平成21年7月9日1-4, 2009.
5. 伊藤泰介：病因から考える円形脱毛症の治療. 日皮会誌119(13); 2960-2962, 2009.
6. 伊藤泰介：「円形脱毛症」と思うが・・・? Medical Practice 26(12); 2121-2127, 2009.
7. 伊藤泰介：病因から考える脱毛症の治療 日本皮膚科学会雑誌119(13)2960-2962, 2009
8. 伊藤泰介：ストレスと毛髪 マルホ皮膚科セミナー200: 43-46, 2009
9. 伊藤泰介：円形脱毛症. 皮膚科疾患最新の治療 2009-2010: 242, 2009
10. Ito T, Takigawa M. Immune privilege and alopecia areata. Expert Review of Dermatology 5: 141-148, 2010

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 古江増隆, 川島 眞, 古川福美, 飯塚 一, 伊藤雅章, 中川秀己, 塩原哲夫, 島田眞路, 瀧川雅浩, 竹原和彦, 宮地良樹, 片山一朗, 岩月啓氏, 橋本公二：アトピー性皮膚炎患者における前向きアンケート調査の開始時基礎情報（第1報）. 臨63(6); 433-441, 2009.
2. 古川福実, 池田高治, 佐藤伸一, 瀧川雅浩：皮膚科領域におけるステロイド内服剤の使用に伴うステロイド性骨粗鬆症に対する予防的治療の実態（第二報）. 西日皮71(2); 209-215, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 橋爪秀夫：帯状疱疹の上手な治し方 病気の正しい情報を. 早期発見でのばそう健康寿命 浜松医科大学公開講座 静岡新聞社（編）40-45, 2009.
2. 橋爪秀夫：川崎病 ジベルばら色枇糠 医療文書の書き方. 皮膚疾患診療実践ガイド 宮地良樹、古川福実（編）文光堂415-416, 503-504, 770-774, 2009.
3. 橋爪秀夫：湿疹（アトピー性皮膚炎・接触皮膚炎）今日の診療のために ガイドライン外来診療2010.泉 孝英（編）日経メディカル開発 293-300, 2010.
4. 橋爪秀夫：Toxic epidermal necrolysis（TEN）における血漿交換の有用性とその実施のポイント. EBMアレルギー疾患の治療 秋山一男, 池澤善郎, 岩田 力, 岡本美孝（編）中外医学社387-391, 2010.
5. 伊藤泰介：私はこうして留学生生活をエンジョイした. 楽しい留学生活の基本3点. 新 皮膚科レジデント・戦略ガイド 宮地良樹編集 診断と治療社 p243-246, 2009
6. Ito T, Takei M, Paus R. NK cells/Epithelium interaction. In: Natural Killer cells: Basic Science and Clinical Application. Edited by Lotze MT, Thomson AW. Chapter 21, Elsevier Science & Technology, Dec 2009

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Contact immunotherapy-induced Renbök phenomenon in a patient with alopecia areata and psoriasis vulgaris. Ito T, Hashizume H, Takigawa M. Eur J Dermatol. Eur J Dermatol 20: 126-127 2010

インパクトファクターの小計 [1.968]

4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	2件

1. 経皮投薬方法、ニードル形成体及び経皮投薬装置
出願日：平成21年4月17日
出願番号：特願2009-101468（出願中）
2. プロスタグランジンEP-1受容体作動薬からなる免疫治療増強剤
出願日：平成21年4月27日
出願番号：PCT/JP2009/058305（出願中）

5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (871万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1件 (180万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	4件 (128.7万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	15件 (1467万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 瀧川雅浩（代表者）基盤研究(A) 経皮ペプチド免疫療法によるヒトの悪性黒色腫治療 平成18-21年度 直接経費 300万円 間接経費 90万円（継続）
2. 橋爪秀夫 基盤研究(C) 薬剤アレルギー発症を規定する薬剤抗原認識機構に関する研究 平成21-22年度 直接経費 180万円 間接経費 54万円（新規）
3. 瀬尾尚宏 基盤研究(C) 制御性T細胞が表皮ランゲルハンス細胞の動態に及ぼす影響に関する研究 平成21-23年度 間接経費 190万円 間接経費 57万円（新規）

(2) 厚生労働科学研究費

1. 橋爪秀夫（分担者）免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 金属アレルギーの革新的診断・予防・治療法の開発研究（新規）代表者 東北大学加齢医学研究所・加齢生体防御学研究所 小笠原康悦 180万円

(5) 受託研究または共同研究

受託研究428	429,000円	H21. 12~H24. 10. 15
受託研究440	429,000円	H22. 1~H23. 9. 30
受託研究444	171,600円	H22. 2~H26. 7. 31
受託研究445	257,400円	H22. 2~H25. 1. 31

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	2件
(2) シンポジウム発表数	0件	12件
(3) 学会座長回数	0件	5件
(4) 学会開催回数	0件	3件
(5) 学会役員等回数	0件	9件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

- 第94回日本皮膚科学会静岡地方会 2009. 6 静岡市
- 第95回日本皮膚科学会静岡地方会 2009. 10 三島市
- 第96回日本皮膚科学会静岡地方会 2010. 2 浜松市

2) 学会における特別講演・招待講演

- 瀧川雅浩：「皮膚科医の立場からみたアレルギーの心理的側面」第21回日本アレルギー学会
春季臨床大会 2009. 6 岐阜市
- 瀧川雅浩：教育セミナー「夏場の子供のかゆみ対策」第33回日本小児皮膚科学会学術大会
2009. 7 千葉市

3) シンポジウム発表

- 瀧川雅浩：「経皮ペプチド免疫療法による患者治療」第13回日本がん免疫学会総会 2009.6 北
九州市
- 橋爪秀夫：教育講演「紫外線と免疫」日本皮膚科学会総会 2009年 4月24日-26日 福岡市
- 橋爪秀夫：「経皮ペプチド療法」日本皮膚悪性腫瘍学会 2009年 5月22日-23日 岡山市
- 橋爪秀夫：「重症薬疹の治療」日本アレルギー学会 2009年 6月 5日-6日 岐阜市
- 橋爪秀夫：「乾癬患者のQOL改善とネオオーラル治療」日本皮膚科学会中部支部学術大会 2009
年10月10日-11日
- 橋爪秀夫：「金属によるT細胞反応」日本皮膚アレルギー学会・接触皮膚炎学会 2009年11
月 6日-8日 京都市
- 橋爪秀夫：「薬疹に関する情報収集およびデータベース」日本皮膚アレルギー学会・接触皮
膚炎学会 2009年11月 6日-8日 京都市

伊藤泰介：第108回日本皮膚科学会総会 教育講演 病因から考える脱毛症の治療 2009. 4. 26
福岡市

伊藤泰介：京都毛髪研究会 Hair Immunology 2009. 8 京都 招待講演

伊藤泰介：第73回日本皮膚科学会東京支部学術大会 2009. 9 東京 教育講演

伊藤泰介：「毛とアレルギー」皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 2009. 11 京
都市 教育講演

伊藤泰介：岐阜市内科会7月例会

4) 座長をした学会名

瀧川雅浩：第108回日本皮膚科学会総会 2009. 4. 23- 4. 26 福岡市

瀧川雅浩：第25回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2009. 5. 21- 23 岡山市

瀧川雅浩：第39回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 2009. 11 京都市

橋爪秀夫：第108回日本皮膚科学会総会 2009. 4. 23- 4. 26 福岡市

橋爪秀夫：第39回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 2009. 11 京都市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

瀧川雅浩 世界皮膚リンフォーマ学会 理事

瀧川雅浩 日本皮膚科学会 代議員

瀧川雅浩 日本皮膚悪性腫瘍学会 理事

瀧川雅浩 日本皮膚アレルギー学会 評議員

瀧川雅浩 日本乾癬学会 理事

橋爪秀夫 日本皮膚科学会 代議員

橋爪秀夫 日本研究皮膚科学会 評議員

橋爪秀夫 日本皮膚アレルギー学会・日本接触皮膚炎学会 評議員

伊藤泰介 日本研究皮膚科学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	3件

(2) 外国の学術雑誌の編集

瀧川雅浩 Acta Dermato-Venereol (Sweden), Editorial Board

瀧川雅浩 Experimental Dermatology (Denmark), Editorial Board

橋爪秀夫 The Online Dermatological Journal (USA), Editorial advisory board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

瀧川雅浩 Acta Dermato-Venereol 5回 (Sweden)

橋爪秀夫 J Dermatol 10回 (日本)

橋爪秀夫 Acta Dermato-Venereol 5回 (Sweden)

橋爪秀夫 Br J Dermatol 1回 (England)
 橋爪秀夫 J Dermatol Sci 3回 (日本)
 橋爪秀夫 Clin Exp Dermatol 2回 (USA)
 橋爪秀夫 The Online Dermatol J 2回 (USA)
 伊藤泰介 Experimental Dermatology 2回 (Denmark)
 伊藤泰介 British Journal of Dermatology 1回 (England)
 伊藤泰介 Clinical Experimental Dermatology 1回 (England)
 伊藤泰介 International Journal of Dermatology 3回 (USA)
 伊藤泰介 Journal of Dermatology 4回 (日本)
 伊藤泰介 Archives of Dermatological Research 1回 (Germany)
 伊藤泰介 Journal of Dermatological Science 2回 (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

藤山俊晴：超小型可搬型イオンフォース装置の研究開発 (株)ロジフル

藤山俊晴：新規機能性マイクロニードルを用いた経皮薬剤投与システムに関する研究 ASTI(株)

橋爪秀夫，藤山俊晴：遠赤外線分光解析による皮膚内情報検出の試み 豊橋技術大学 中内茂樹

10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

11 受賞

(1) 国際的な授賞

Fujiyama T, Poster Prize, 5th International Workshop for the Study of Itch.

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 橋爪秀夫，藤山俊晴，金林純子：薬剤過敏性症候群の病態解析

薬剤過敏性症候群 (DIHS) は、紅皮症，末梢好酸球増多，異型リンパ球の出現および多臓器障害を生じる重症薬疹である。本疾患の経過中にヒトヘルペスウイルス (HHV) -6の再活性化が高頻度にみられることが，明らかとなり，本症の重症化と関連することから，そのメカニズムに関心が寄せられているが，未だ不明な点が多い。我々は，DIHS患者の末梢血中に単球の増加が一過性にみられ，それが経過中にみられるHHV-6またはサイトメガロウイルス (CMV) の再活性化と

強い関連があることを見出した。また、経過中の循環単球は、CD14またはCD16の発現が正常単球と異なることが判明し、HHV-6が内在することが確認された。皮疹部に浸潤するCD4陽性細胞の一部にHHV-6抗原およびゲノムを認めることから、一過性に骨髄から動員された幼若なHHV-6を内在する単球が、皮膚に浸潤し、皮膚内のCD4陽性細胞へHHV-6感染をおこすことが推測された。我々はさらに、患者の一部の血清中にdamage associated molecular pattern moleculesのひとつであるhigh mobility group box-1が著しく高い場合があることを見出し、この分子が骨髄からの単球動員に関与している可能性を示した。

2. 藤山俊晴, 金林純子, 橋爪秀夫: アトピー性皮膚炎における精神的ストレスの影響

アトピー性皮膚炎 (AD) の悪化因子のひとつとして、精神的ストレスが挙げられる。その因果関係を客観的に検討するため、我々は精神的ストレスの指標としてstate trait anxiety inventory (STAI) の点数、血漿ノルエピネフリン (NE) 値および血漿クロモグラニン-A (CA) 値を調べ、SCORADによる重症度との関連を調べた。AD患者においてNE値はSTAIおよび重症度と正の相関を認めたが、精神的ストレスの指標と信じられているCA値は、STAIおよび重症度との関連を認めなかった。CAは、通常ストレス下におけるカテコラミンなどの神経伝達物質の放出を抑制することが知られていることから、AD患者においては、CAによる神経伝達物質の制御に障害がある可能性が考えられた。

3. 円形脱毛症における自己抗原に対する特異的細胞障害性T細胞の探索

円形脱毛症は未だ不明な点が多く治療に難渋する症例が多い。現在考えられている病態は、メラニン関連蛋白に対する細胞性免疫を主体とした組織特異的な自己免疫疾患ととらえられている。SCIDマウスに患者の病変部 (脱毛した) 皮膚を移植すると脱毛症状が改善するが、そこに事前に患者毛髪ホモジネートやメラノーマと共培養しておいたリンパ球を皮下注射すると再び脱毛症状が再現されることから、推定されている自己抗原はメラニン蛋白と考えられてきた。しかし患者自身にその蛋白に対して特異的に反応する障害性T細胞が存在するのかは不明であった。我々は患者の末梢血と皮膚病変部のCD8T細胞にメラニン関連蛋白であるMAGE3に特異的に反応するCD8陽性T細胞が存在することを見いだした。これは病勢が改善することと比例して減少した。この特異的細胞障害性T細胞は急性期の多発性や全頭性円形脱毛症において健常人と比較して有意に増加していたが、慢性期の患者では優位な増加はみられなかった。またこの細胞はMAGE3刺激によってインターフェロンガンマ産生がみられた。円形脱毛症治療においてこの細胞数の働きや産生を抑制する方向での治療が有効であると理解された。

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 伊藤泰介: 子どもに増加 円形脱毛症. 中日新聞2009.
2. 瀧川雅浩: アトピー性皮膚炎も改善させた自然の力. きれいにくらす 初夏号2009.